

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 九州財務局長

**【提出日】** 平成25年2月13日

**【四半期会計期間】** 第34期第3四半期(自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日)

**【会社名】** 株式会社ヒガシマル

**【英訳名】** HIGASHIMARU CO.,LTD.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 東 紘一郎

**【本店の所在の場所】** 鹿児島県日置市伊集院町猪鹿倉20番地

**【電話番号】** 099-273-3859 (代表)

**【事務連絡者氏名】** 管理部長 木通 昌生

**【最寄りの連絡場所】** 鹿児島県日置市伊集院町猪鹿倉20番地

**【電話番号】** 099-273-3859 (代表)

**【事務連絡者氏名】** 管理部長 木通 昌生

**【縦覧に供する場所】** 証券会員制法人福岡証券取引所  
  
(福岡市中央区天神二丁目14番2号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第33期 第3四半期 連結累計期間		第34期 第3四半期 連結累計期間		第33期	
		自 至	平成23年4月1日 平成23年12月31日	自 至	平成24年4月1日 平成24年12月31日	自 至	平成23年4月1日 平成24年3月31日
売上高	(千円)		7,424,630		6,642,850		8,686,328
経常利益又は経常損失( )	(千円)		153,093		404,960		13,369
四半期(当期)純利益	(千円)		13,153		327,453		148,392
四半期包括利益又は包括利益	(千円)		109,248		474,514		331,594
純資産額	(千円)		4,251,471		4,910,660		4,473,817
総資産額	(千円)		9,218,106		11,586,205		8,422,167
1株当たり四半期(当期)純利益	(円)		2.80		69.59		31.54
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)						
自己資本比率	(%)		46.1		42.4		53.1

回次		第33期 第3四半期 連結会計期間		第34期 第3四半期 連結会計期間	
		自 至	平成23年10月1日 平成23年12月31日	自 至	平成24年10月1日 平成24年12月31日
1株当たり四半期純利益	(円)		6.65		43.09

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。  
2 売上高には、消費税等は含まれておりません。  
3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、各セグメントに係る主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

##### (食品事業)

当社が全株式を取得したコスモ食品株式会社及び同社の子会社であるコスモファーム株式会社、コスモ食品研究株式会社、イワキフーズ株式会社、津軽和漢堂株式会社、弘前屋株式会社が連結子会社となりました。

なお、当第3四半期連結会計期間末日後の平成25年2月1日付けで当社の100%子会社であるコスモ食品株式会社が同社の100%子会社であるコスモファーム株式会社を吸収合併しております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興関連需要やエコカー補助金等の政策効果により、一部緩やかな景気回復の動きが見られましたが、欧州債務問題、新興諸国の減速、長期化する円高及びデフレ化等の影響は根強く、年末、政権交代による大型景気対策への期待感の高まりを見せるものの、景気の先行きは依然として不透明な状況であります。

このような状況のなか、当社グループは市場動向を見極めながら、顧客ニーズを捉えた新商品の開発及び販売活動を積極的に展開するとともに、生産性向上及び経費削減等に努めてまいりました。一方、不採算続きであった海外子会社HIGASHIMARU VIETNAM CO., LTDの清算を進め、また、平成24年7月31日にコスモ食品株式会社の子会社化によりグループ経営の効率化及びシナジー創出で、将来の更なる成長と企業価値向上を目指して、積極的に取り組んでまいりました。

なお、コスモ食品株式会社及びその子会社につきましては、第2四半期連結会計期間末（平成24年9月30日）を支配獲得日とみなして処理していることに伴い、同社及びその子会社の業績は、当第3四半期連結会計期間から連結業績に含めております。

その結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高は66億42百万円と前年同四半期と比べ7億81百万円（10.5%）の減収、営業利益は3億62百万円と前年同四半期と比べ1億41百万円（63.8%）の増益、経常利益は4億4百万円と前年同四半期と比べ2億51百万円（164.5%）の増益、四半期純利益は3億27百万円と前年同四半期と比べ3億14百万円の増益となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### 水産事業

水産事業におきましては、当社が主原料とする輸入魚粉のマーケットは魚粉量減少に加え、中国をはじめとする新興国の需要増を背景に価格は高止まりで推移しており、また、国内の魚価低迷が続き養殖経営を取り巻く環境は大変厳しい状況が続いております。

このような環境の下、マダイ飼料類及びヒラメ飼料類の販売は増加しましたが、クルマエビ飼料類及びハマチ飼料類が他社価格競争等により、大口取引及び受託製造販売が減少しました。

その結果、売上高は51億8百万円と前年同四半期と比べ10億41百万円（16.9%）の減収となりましたが、セグメント利益は4億8百万円と前年同四半期と比べ2億16百万円（112.9%）の増益となりました。

## 食品事業

食品事業におきましては、消費者の節約志向及び低価格志向の高まりから、プライベートブランドの台頭により、対抗措置として各メーカーの低価格競争が激化しており厳しい状況が続いております。

このような環境の下、新商品の開発にも力を注ぎ、即席めん類は「ラー麺サラダ」、皿うどん類は手軽にできる料理提案型商品「海鮮皿うどん」、「もやしと豚肉あんかけ揚げめん」及び「かに玉風あんかけ揚げめん」等を発売してまいりました。営業活動の結果、そば類及びそうめん類は増加しましたが、復興需要の反動減や大手食品会社の商品力及び価格攻勢等の影響から、即席めん類及び皿うどん類は減少しました。

一方、コスモ食品株式会社及びその子会社の業績が、当第3四半期連結会計期間から当社グループの業績に含まれたことにより、売上高は15億34百万円と前年同四半期と比べ2億60百万円（20.4%）の増収となり、セグメント利益は1億43百万円と前年同四半期と比べ40百万円（39.4%）の増益となりました。

## (2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ31億64百万円増加し、115億86百万円となりました。これは、主として現金及び預金が7億55百万円、受取手形及び売掛金が12億25百万円、有形固定資産が3億94百万円増加したことに加え、コスモ食品株式会社を子会社化（株式取得）したことにより、のれんが4億69百万円計上されたことなどによるものであります。

負債は、前連結会計年度末と比べ27億27百万円増加し、66億75百万円となりました。これは、主として買掛金が6億75百万円増加したほか、コスモ食品株式会社の子会社化（株式取得）に要した資金調達の関係から、短期借入金が14億52百万円、長期借入金が10億89百万円増加したことなどによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末と比べ4億36百万円増加し、49億10百万円となりました。これは、主として利益剰余金が2億89百万円、繰延ヘッジ損益が1億45百万円増加したことなどによるものであります。

## (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

## (4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間のグループ全体の研究開発費の総額は1億23百万円であります。

(5) 従業員数

連結会社の状況

当第3四半期連結累計期間において、食品事業の従業員数が53名増加しております。これは、主としてコスモ食品株式会社の子会社化によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の従業員数は、次のとおりであります。

セグメントの名称	従業員数(名)
水産事業	115
食品事業	127
全社(共通)	16
合計	258

(注) 1 従業員数は就業人員数であります。

2 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

( ) 当第3四半期連結累計期間は、「第4 経理の状況」において四半期連結キャッシュ・フロー計算書を掲げていないため、キャッシュ・フローの状況に関する分析・検討内容は記載しておりません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	17,900,000
計	17,900,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年2月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	4,746,000	4,746,000	福岡証券取引所	単元株式数は 100株であります。
計	4,746,000	4,746,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成24年10月1日～ 平成24年12月31日		4,746		603,900		393,400

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 40,800		
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,705,000	47,050	
単元未満株式	普通株式 200		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	4,746,000		
総株主の議決権		47,050	

(注)「単元未満株式」欄の株式数には、当社所有の自己株式89株が含まれております。

【自己株式等】

平成24年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ヒガシマル	鹿児島県日置市伊集院町 猪鹿倉20番地	40,800		40,800	0.85
計		40,800		40,800	0.85

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

役職の異動

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
専務取締役	常務取締役	東 実	平成24年6月27日

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成24年10月1日から平成24年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。



1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,240,330	1,996,151
受取手形及び売掛金	1,301,720	2,527,379
有価証券	-	69,270
商品及び製品	354,830	408,623
仕掛品	69,089	78,073
原材料及び貯蔵品	744,884	888,468
その他	325,299	340,794
貸倒引当金	16,137	15,816
流動資産合計	4,020,018	6,292,945
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,127,582	1,247,775
機械装置及び運搬具（純額）	629,930	681,055
土地	1,763,746	1,968,436
その他（純額）	57,924	75,979
有形固定資産合計	3,579,184	3,973,246
無形固定資産		
のれん	-	469,506
その他	39,208	36,375
無形固定資産合計	39,208	505,882
投資その他の資産		
投資その他の資産	827,571	856,695
貸倒引当金	43,813	42,563
投資その他の資産合計	783,757	814,131
固定資産合計	4,402,149	5,293,260
資産合計	8,422,167	11,586,205

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	344,810	1,019,904
短期借入金	1,304,000	2,756,060
未払法人税等	40,176	9,237
賞与引当金	71,518	44,662
事業整理損失引当金	142,934	-
その他	522,082	355,162
流動負債合計	2,425,522	4,185,026
固定負債		
長期借入金	782,000	1,871,500
退職給付引当金	39,920	42,376
役員退職慰労引当金	446,416	380,839
その他	254,491	195,802
固定負債合計	1,522,827	2,490,518
負債合計	3,948,349	6,675,544
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	603,900	603,900
資本剰余金	458,400	458,400
利益剰余金	3,579,656	3,869,467
自己株式	28,938	28,968
株主資本合計	4,613,017	4,902,799
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	17,654	11,104
繰延ヘッジ損益	175,212	29,321
為替換算調整勘定	18,358	26,078
その他の包括利益累計額合計	139,199	7,861
純資産合計	4,473,817	4,910,660
負債純資産合計	8,422,167	11,586,205

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	7,424,630	6,642,850
売上原価	6,310,689	5,297,065
売上総利益	1,113,940	1,345,784
販売費及び一般管理費		
運賃諸掛	323,138	300,487
貸倒引当金繰入額	3,156	-
給料及び賞与	197,103	253,474
賞与引当金繰入額	6,827	16,670
役員退職慰労引当金繰入額	7,341	7,173
その他	368,477	405,129
販売費及び一般管理費合計	892,389	982,933
営業利益	221,550	362,851
営業外収益		
受取利息	412	244
受取配当金	3,965	3,232
為替差益	-	2,844
受取保険金	2,632	35,377
役員退職慰労引当金戻入額	40,943	-
雑収入	18,477	35,127
営業外収益合計	66,431	76,826
営業外費用		
支払利息	17,062	21,223
為替差損	113,795	-
雑損失	4,029	13,492
営業外費用合計	134,888	34,716
経常利益	153,093	404,960
特別利益		
投資有価証券売却益	6,634	-
補助金収入	9,428	-
特別利益合計	16,063	-
特別損失		
固定資産除却損	1,101	-
投資有価証券売却損	32	-
特別損失合計	1,134	-
税金等調整前四半期純利益	168,022	404,960
法人税、住民税及び事業税	141,470	22,480
法人税等調整額	13,399	55,027
法人税等合計	154,869	77,507
少数株主損益調整前四半期純利益	13,153	327,453
四半期純利益	13,153	327,453

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	13,153	327,453
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,100	6,550
繰延ヘッジ損益	28,665	145,891
為替換算調整勘定	68,530	7,720
その他の包括利益合計	96,095	147,061
四半期包括利益	109,248	474,514
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	109,248	474,514
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
<p>連結の範囲の重要な変更</p> <p>第2四半期連結会計期間から、コスモ食品株式会社の株式取得により、同社及びその子会社であるコスモファーム株式会社、コスモ食品研究株式会社、イワキフーズ株式会社、津軽和漢堂株式会社、弘前屋株式会社を連結の範囲に含めております。なお、みなし取得日を第2四半期会計期間末としているため、当第3四半期連結会計期間から損益計算書を連結しております。</p>

【会計方針の変更等】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
<p>(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)</p> <p>当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間から、平成24年4月1日以降に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。なお、この変更による影響は軽微であります。</p>

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
受取手形	2,079千円	214,067千円

(四半期連結損益計算書関係)

売上高及び売上原価の季節的変動

前第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

養魚用配合飼料の需要は、養殖魚の成長過程に応じ、摂餌が旺盛になる夏から初冬までが多く、水温が低下し摂餌量が鈍くなる冬から春は少なくなるという季節的変動があります。

したがって、第2四半期連結累計期間及び第3四半期連結累計期間において売上高及び売上原価が大きく増加する傾向にあります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
減価償却費	248,181千円	217,824千円
のれんの償却額		12,038

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	42,346	9	平成23年3月31日	平成23年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月27日 定時株主総会	普通株式	37,641	8	平成24年3月31日	平成24年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	水産事業	食品事業			
売上高					
外部顧客への売上高	6,150,221	1,274,408	7,424,630		7,424,630
セグメント利益	192,088	103,210	295,299	142,205	153,093

- (注) 1 セグメント利益の調整額 142,205千円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用等であり、提出会社の管理部門に係る販売費及び一般管理費120,232千円、営業外収益35,869千円、営業外費用57,842千円であります。  
2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自平成24年4月1日至平成24年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	水産事業	食品事業			
売上高					
外部顧客への売上高	5,108,386	1,534,464	6,642,850		6,642,850
セグメント利益	408,947	143,885	552,832	147,872	404,960

(注) 1 セグメント利益の調整額 147,872千円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用等であり、提出会社の管理部門に係る販売費及び一般管理費160,575千円、営業外収益32,236千円、営業外費用19,533千円でありま  
す。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

第2四半期連結会計期間にコスモ食品株式会社を連結子会社としたことを主因として、前連結会計年度の末日と比べて当第3四半期連結会計期間末の「食品事業」セグメントの資産の金額が1,819,369千円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
1株当たり四半期純利益	2円80銭	69円59銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(千円)	13,153	327,453
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益(千円)	13,153	327,453
普通株式の期中平均株式数(千株)	4,705	4,705

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年2月13日

株式会社ヒガシマル  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 川 畑 秀 二 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 只 隈 洋 一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ヒガシマルの平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成24年10月1日から平成24年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ヒガシマル及び連結子会社の平成24年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以 上

- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。